

アルジェリア地震災害(2003年5月)に対する国際緊急援助隊の派遣事例



JDR 救助チーム
(アルジェリア地震災害)
倒壊ホテル現場での救助作業



JDR 医療チーム
(アルジェリア地震災害)
JDR 仮設診療所での被災者の診療



JDR 専門家チーム
(アルジェリア地震災害)
被災現場の視察

アルジェリア地震災害に対する国際緊急援助隊派遣の概要

災害状況	2003年5月21日19時44分(日本時間22日午前3時44分)、アルジェリアの首都アルジェ東方50kmのブメルデス県を震源に、深さ約10km、マグニチュード6.7の地震が発生し、アルジェ県およびブメルデス県などで甚大な被害が生じた。 死者2,266名、負傷者10,261名(2003年6月23日時点のUNOCHA情報)住宅を失った人182,000人、倒壊家屋19,000棟(国立耐久技術研究センター情報)
要請の背景	5月22日のアルジェリア政府からの要請を受け、外務省は救助チームについては5月22日、医療チームは5月24日、専門家チームについては6月6日に各々財務省との協議を経て、国際緊急援助隊を派遣する旨決定、JICAに派遣を命令した。
活動サイト	救助チーム： ブメルデス県ゼンムリ市エル・バーリにあるコンプレックス・ル・ロータスホテル(6階建て)の倒壊現場 医療チーム： ブメルデス県ゼンムリ市中心部のサッカースタジアム内。救助チームの活動サイトの南東5～6kmに位置する。 専門家チーム： 首都アルジェおよびブメルデス県
活動内容(成果)	救助チーム： 行方不明者6名救出・収容(1名は生存者、5名は遺体) 医療チーム： 震災による急性疾患患者を中心に延べ1,623名を診察 公衆トイレ設置促進など衛生環境改善活動の実施 専門家チーム： ① 建造物の耐震診断の実施に必要な技術的助言 ② 倒壊を免れた建築物に係る補強方法に関する技術的助言 ③ 社会インフラの復興計画策定に関する技術的助言 ④ 都市復興に必要な行政の取り組みに関する技術的助言 ⑤ 上記の助言を取りまとめた報告書のアルジェリア政府への提出
その他	緊急無償資金協力として10万ドルを供与 国際救助捜索諮問グループ(INSARAG)ガイドラインに準拠した救助チームの派遣が行われた。

JDR	派遣期間	人数	内訳	概算経費
救助チーム (第1陣)	5/22～5/29 (8日間)	18人	団長1名、副団長4名、中隊長1名、救助隊員38名、通信2名、ハンドラー3名、医療班4名、業務調整員8名、救助犬2頭	156,679千円
救助チーム (第2陣)	5/23～5/29 (7日間)	43人	携行機材5トン(捜索・救助用資機材、通信機器等)	
医療チーム	5/25～6/7 (15日間)	22人	団長1名、副団長2名、評価1名、救急医療3名、チーフナース1名、救急看護6名、薬剤管理1名、医療調整員2名、業務調整員5名 携行機材2.3トン(医薬品、医療資機材、通信機器等)	65,617千円
専門家チーム	6/12～6/19 (8日間)	7人	団長1名、耐震工学1名、耐震診断・補強1名、土木・道路復旧1名、土木・都市復興1名	12,863千円
				235,159千円

(注)概算経費には機材輸送費も含まれる。

アルジェリア地震災害に対する国際緊急援助隊派遣スケジュール

	2003年5月	2003年6月
	●5/21 地震発生	
アルジェリア政府	○5/22 JDR 派遣要請	
日本政府	△5/22 JDR 派遣決定	
救助 (第1陣)	5/22	5/29
救助 (第2陣)	5/23	5/29
医療	5/25	6/7
専門家		6/12 → 6/19

「医療チーム」の活動に関する現地メディア報道例

「ゼンムリに日が昇る」

日本の医療チームがゼンムリ市のサッカー競技場内に診療所を開設して以来、被災者への医療サービスが改善され、多くの市民が満足の意を表明している。

医療テントの前には子供を多数含む患者の長い列が出来ており、医師は診療に余念がない。その中には被災後、頭部の皮膚疾患が悪化した子供3名が含まれており、診療を待っている。永井周子医師によれば、この3名を除くと、被災した子供の病症は概してショックに起因する精神障害や不安症であり、患者が障害を克服し正常な生活に戻れるよう精神緩和剤を処方している。

1週間前からゼンムリで被災者の診療に当たっている日本医療チームは国際緊急援助隊に所属する32名からなる。日本医療チームは仕事が円滑に行われるよう診療所を4部に分けている。最初の部は受付のテントで、患者の採血、身体測定、血圧測定が行われ、患者はカルテに必要な事項の記入が求められる。次は診察と外科治療の部で、朝日茂樹医師の指導のもと医師3名と看護婦2名が診療に当たっており、テントの中には先端技術の医療機器が設置されている。日本医療チームは仕事の秩序を大切にしているのがうかがわれる。このためカルテを持った患者は直ちに医師の診察を受けることができ、しかも患者にとって大変有り難いことに診療所のすぐ近くに日本医療チームの薬局が処方された薬を無料で提供している。

朝日医師は、診察した症例(心理的ショック、ストレス、不安等)はすべて生活レベルの低下に起因するとし、「ゼンムリには貧しい人が多い。患者の大半は女性と子供である」と指摘する。また同医師は天災を機に流行しがちな伝染病(水を通じて感染する病気、マラリア、疥癬等)の予防措置として、市民向けに衛生上のアドバイス(清潔な水で手を洗うこと、呼吸器疾患患者はマスクをすること、毎日シャワーを浴びること等)を記載した掲示板の設置を挙げている。

朝日医師に寄れば、ゼンムリの日本医療チーム診療所は開設日から今日まで1,152名以上、1日平均220名の患者を診療した。(2003年6月4日付けエル・ムジャヒド紙、写真省略)

各国から派遣された救援チーム実績(主に救助チーム)

	国名	救助者	医師	救助犬	生存者 救助数	遺体収 容数	備考
1	スイス	87	3	9			
2	フランス	245	11	21	8	48	
	(1) COSI	10	-	5	-	10	
	(2) Brigade de Security Civil	60	-	-	8	12	
	(3) Rapide	4	-	-	-	-	
	(4) ADICAF	15	-	-	-	14	
	(5) GIRCS	2	-	-	-	-	
	(6) SSF	15	3	4	-	-	
	(7) Assat ASMCC 57	13	-	-	-	9	
	(8) USRI	12	-	-	-	3	
	(9) Marseille	14	-	-	-	-	
(10) その他	100	8	12	-	-		
3	イタリア	60	-	6	-	4	専門家 6 名
4	ドイツ	40	-	14	-	-	ジャーナリスト 7 名
5	スペイン	131	1	4	3	35	ジャーナリスト 8 名
	(1) Protection de Civil S.F.	17	-	-	1	11	
	(2) その他	114	1	4	2	36	
6	オーストリア	74	4	21	1	8	
7	モロッコ	43	2	-	-	-	
8	リビア	25	6	-	-	-	
9	ポーランド	28	2	6	-	-	
10	ベルギー	72	-	7	-	-	ジャーナリスト 1 名
11	ポルトガル	31	-	6	-	-	
	ロシア	76	-	-	-	92	
	(1) Russie	15	-	-	-	53	
(2) EMERCOM	61	-	-	-	39		
12	トルコ	25	-	1	1	-	
13	スウェーデン	75	-	12	-	-	
14	チェコ	17	-	3	-	5	
15	スロベニア	3	-	-	-	-	
16	ルクセンブルグ	7	-	-	1	28	
17	日本	61	-	2	1	5	
18	イギリス	94	-	6	1	7	
19	中国	35	-	5	-	-	ジャーナリスト 5 名
20	ギリシャ	33	-	-	-	7	
21	チュニジア	62	35	2	-	-	
22	アイスランド	17	-	-	-	-	
23	オーストラリア	39	-	-	-	-	
24	韓国	21	-	2	-	-	
25	南アフリカ	82	-	4	-	3	
26	エジプト	-	13	-	-	-	
27	キューバ	-	30	-	-	-	
28	合計	1,483	107	131	16	254	

(出所) プメルデス防災局データより作成。

- (注) 1) 上記実績はアルジェリア現地調査の祭に収集したプメルデス防災局の暫定データに基づき作成したもので、アルジェリア政府公式統計データに基づく確定版ではない。
 2) 各国からの救助チームには、各国政府が派遣した公式な緊急援助隊の他、NGO も含まれるものもある
 3) 日本とトルコは合同で生存者 1 名を救出した。